

English Wind

小学校全教職員及び
中学校英語科担当教員配布

英語教育の



1 言語活動を通した指導について その1

今号のテーマは言語活動を通した指導です。言語活動については、令和5年6月20日発行のEnglish Wind 第25号において、県内の実施状況や言語活動設定のポイントについて紹介しております。今号では、言語活動を通した授業づくりについて、具体的に紹介いたします。

25号はこちら↓



言語活動設定の4つのポイント

- ① 伝え合う目的や必然性がある。
- ② 相手意識を持って取り組むことができる。
- ③ 実際に自分や相手の気持ちや考えを伝え合う「本物」のコミュニケーションである。
- ④ 伝え合うことの喜びや意義を見いだすことができる。

出典：直山木綿子「小学校外国語教育の指導と評価」文溪堂



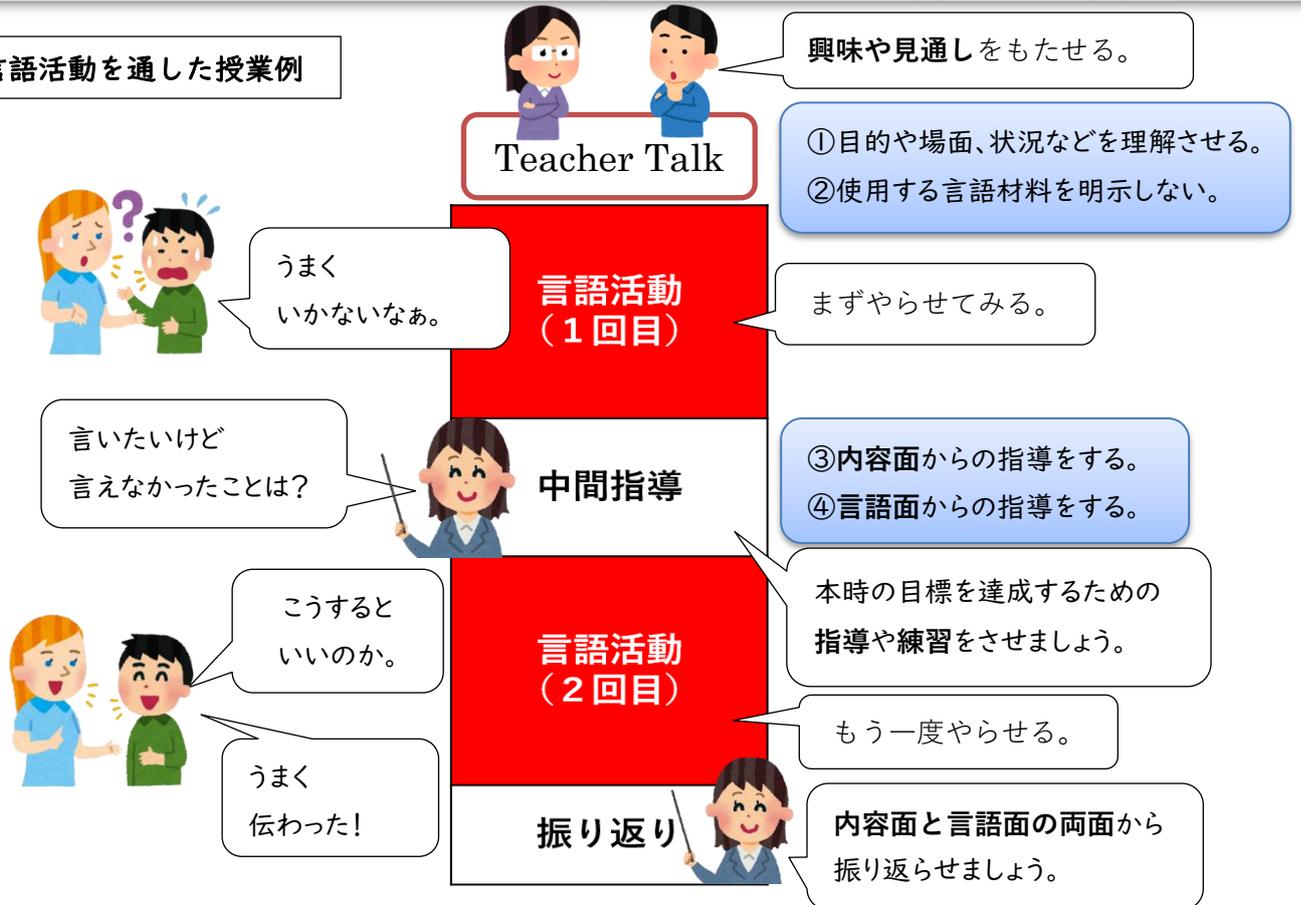
2 外国語活動・外国語の目標

下の表は、小中高の学習指導要領「外国語活動・外国語における目標」を抜粋したものです。どの学校段階の目標にも「言語活動を通して」という言葉が記載されています。外国語教育においては、外国語による言語活動を通して、資質・能力を育成することを目指します。

外国語活動・外国語の目標	
小学校 外国語活動	外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、話すことの <u>言語活動を通して</u> 、コミュニケーションを図る素地となる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
小学校 外国語	外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの <u>言語活動を通して</u> 、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
中学校 外国語	外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの <u>言語活動を通して</u> 、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
高等学校 外国語	外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの <u>言語活動及びこれら</u> <u>を結び付けた統合的な言語活動を通して</u> 、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

※太字、下線は義務教育課で追記

言語活動を通じた授業例



1 ティーチャートーク

言語活動を行う前には、ティーチャートークを通して、子どもたちに興味や見通しをもたせましょう。ここでは、子どもたちに目的や場面、状況などを理解させること、使用する言語材料を明示しないことを意識しましょう。

2 言語活動(1回目)

「言語活動を通じた」指導では、子どもたちにまずやらせてみるのがポイントです。はじめはなかなかうまくコミュニケーションが取れないかもしれません。しかし、最初から十分なパフォーマンスが発揮できないのは当たり前です。「言語活動に取り組ませながらできるようにしていく」という指導観を、私たち英語担当教員がもつことが重要になります。

3 中間指導

言語活動の途中で、中間指導をします。ここでは、前半の活動を振り返り、本時の目標に沿った内容面と言語面についての指導を行います。児童生徒が「言いたかったけど言えなかったこと」を確認したり、友達の発表を聞いたりすることは新たな学びにつながります。必要であれば適切な練習を行います。言語活動ばかりが連続する授業では、児童生徒の成長は望めません。言語活動とのバランスを取りつつ、授業の目標を達成させるために必要となる練習を積み重ねることが出来る指導をしていきましょう。

4 言語活動(2回目)

中間指導の後は、同じ言語活動をもう一度やらせてみます。1回目の言語活動でうまくいかなかったことも、中間指導を経て表現できるようになり、子どもたちは力の高まりを感じるようになってきます。

5 振り返り

授業終盤の振り返りでは、中間指導と同じように、本時の目標に沿った内容面と言語面の両面から振り返らせてみましょう。また、各学校で設定している CAN-DO リストをこの場面で効果的に活用していただくことが大切です。